



## 人の話をしっかりと聴ける子に



校長 中里 純子

今年度初めての朝会で、子どもたちに「人の話をしっかりと聴くことの出来る子になって欲しい」という話をしました。「聞く」ではなく「聴く」。耳にプラス(+)して目と心で「聴く」。さらに「聴く」には、「十四の心」で「聴く」という意味もあるのだということを伝えました。「十四の心」というのはどんな心でしょう。相手の話を楽しんで聴こうとする「わくわくする心」、相手の気持ちに寄り添う「やさしい心」、他にはどんな心があるか考えてみてほしいと児童に投げかけました。

その日の中休みに、2人の2年生が、自分なりに考えた「十四の心」を伝えに校長室を訪ねてきました。その後も何人もの児童が自分たちで考えた、「聴く」ときに大切にしたい心を伝えに来てくれました。「あったかい心」「ゆったりした心」「ほわほわの心」「勇気づける心」「笑顔にする心」「興味がある心」「強い心」「美しい心」・・・と、たくさん集まりました。

以前、ある学校の6年生の道徳科の授業を見に行った時のことです。どの児童も、自分の経験や思いを本音でとても楽しそうに話しており、何て話すことに慣れている子どもたちだろうと感心したのを覚えています。ところが、その様子を見ていて気付いたことがありました。話を聴いている周りの子どもたちが、目を輝かせながらみんな話し手の方を向いて、時に頷いたりしながら身を乗り出して聴いているのです。まさに、目と心で「十四の心」で聴いていたのだと思います。その教室には、互いを大切にしあい、もっと互いに知り合いたいという親和的な雰囲気が溢れていました。きっとこうした「聴く力」があるからこそ「話す力」もついたのでしよう。

「聴く力」を伸ばすためには、「話に興味をもたせる工夫をする」「大人も視線を合わせて聴く」「最後まで聞いてよかった体験を重ねる」ことだそうです。私たち大人も、目と心で、「十四の心」で子どもたちの話を聴いていきたいものです。

校長室の前に、子どもたちが考えた「十四の心」が掲示してあります。機会があれば、是非お立ち寄りください。

### 子どもたちが考えた 「十四の心」の一部を紹介します

- ・がんばる心
- ・あったかい心
- ・美しい心
- ・やさしい心
- ・ほわほわの心
- ・強い心
- ・きれいな心
- ・りっぱな心
- ・ワクワクする心
- ・ゆったりとした心
- ・相手の気持ちを考える心
- ・ウキウキな心(今日は何があるのかな)
- ・興味がある心(友達のことを知りたいな)
- ・勇気づける心、そして笑顔にする心

など、ほかにもたくさん考えてくれました。

